

# エジプト学研究第 22 号 2016 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.22, 2016

## 目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2015 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
第 23 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報		
..... 吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・高橋寿光・竹野内恵太・山崎美奈子・福田莉紗		15
第 24 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報		
.. 吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・松永修平・山崎世理愛		29
アブ・シール南丘陵遺跡第 23 次・第 24 次調査保存修復作業		
..... 荻谷浩子・柏木裕之・高橋寿光・河合 望・吉村作治		41
第 12 次アブ・シール南丘陵遺跡調査において出土した集団埋葬墓人骨の人類学的分析（予報）		
..... 坂上和弘・馬場悠男・平田和明		51
非破壊オンサイト蛍光 X 線分析によるアブ・シール南丘陵遺跡集団埋葬墓出土遺物の化学的特性化		
..... 阿部善也・大越あや・内沼美弥・扇谷依李		69
エジプト ダハシュール北遺跡調査報告—第 22 次調査—		
..... 吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・柏木裕之・竹野内恵太・山崎世理愛		91
第 8 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報		
..... 近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・高橋寿光・竹野内恵太・福田莉紗		113
〈論文〉		
エジプト先王朝時代ネケンにおける石製容器の穿孔法—石器使用痕観察と穿孔実験からの推定—		
..... 長屋憲慶		149
〈研究ノート〉		
古代エジプトの親族名称研究の現状と課題	齋藤久美子	167
図像資料からみたエジプト中王国時代の装身具研究序論	山崎世理愛	179
〈動向〉		
埃及学指南のための覚書	河合 望	205
〈活動報告〉		
2015 年度 日本エジプト学会活動報告		229
2015 年 エジプト調査		233

# The Journal of Egyptian Studies Vol.22, 2016

## CONTENTS

Preface .....	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2015, Project of the Solar Boat .....	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Twenty-Third Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2014 .....	Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Jiro KONDO, Izumi TAKAMIYA, Kazumitsu TAKAHASHI, Keita TAKENOUCI, Minako YAMASAKI and Risa FUKUDA.....	15
Preliminary Report on the Twenty-Fourth Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2015 .....	Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Jiro KONDO, Izumi TAKAMIYA, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Yuka YONEYAMA, Shuhei MATSUNAGA and Seria YAMAZAKI .....	27
Preliminary Report on the Conservation Work at North-West Saqqara in 2014 and 2015 Seasons .....	Hiroko KARIYA, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Nozomu KAWAI and Sakuji YOSHIMURA .....	41
Report on the Study of Human Skeletal Remains from the Multiple Burial in Northwest Saqqara, Egypt -Preliminary report- .....	Kazuhiro SAKAUE, Hisao BABA and Kazuaki HIRATA.....	51
Chemical Characterization of Artifacts Excavated from an Intact Multiple Burial at Northwest Saqqara by Nondestructive Onsite X-ray Fluorescence Analysis .....	Yoshinari ABE, Aya OKOSHI, Miya UCHINUMA and Eri OGIDANI.....	69
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Twenty-Second Season .....	Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Keita TAKENOUCI and Seria YAMAZAKI.....	91
Preliminary Report on the Eighth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition .....	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI Nozomu KAWAI, Kazumitsu TAKAHASHI, Keita TAKENOUCI and Risa FUKUDA.....	113
Articles		
Stone Vessel Drilling Method at Predynastic Nekhen, Hierakonpolis: Perspectives from Use-wear Trace Analysis and Experimental Drilling. .....	Kazuyoshi NAGAYA .....	149
Current Status and Issues of Kinship Terminology in Ancient Egypt .....	Kumiko SAITO .....	167
Introduction to a Study on Personal Adornments of the Middle Kingdom in Ancient Egypt through the Iconographic Analysis .....	Seria YAMAZAKI.....	179
Note on the current research tools for Egyptology.....	Nozomu KAWAI.....	205
Activities of the Society, 2015-16.....		229
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2015.....		233

## 第23次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報

吉村 作治\*<sup>1</sup>・河合 望\*<sup>2</sup>・近藤 二郎\*<sup>3</sup>・高宮いづみ\*<sup>4</sup>  
高橋 寿光\*<sup>5</sup>・竹野内 恵太\*<sup>6</sup>・山崎 美奈子\*<sup>7</sup>・福田 莉紗\*<sup>7</sup>

### Preliminary Report on the Twenty-Third Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2014

Sakuji Yoshimura\*<sup>1</sup>, Nozomu Kawai\*<sup>2</sup>, Jiro Kondo\*<sup>3</sup>, Izumi Takamiya\*<sup>4</sup>,  
Kazumitsu Takahashi\*<sup>5</sup>, Keita Takenouchi\*<sup>6</sup>, Minako Yamasaki\*<sup>7</sup> and Risa Fukuda\*<sup>7</sup>

#### Abstract

The team from the Institute of Egyptology at Waseda University resumed its 23rd season of the excavation at a rocky outcrop in the desert at Northwest Saqqara from August to September 2014. Excavations were carried out in two areas: the area to the south of the monument of Khaemwaset and the area around the main shaft of the tomb of Isisnofret. In the former area, we have identified the remains of fillings to make flat floor in the area adjacent to the southern exterior wall of the monument of Khaemwaset. We also identified the remnants of the activities, including three pits, which seems to have been dug prior to the construction of the monument of Khaemwaset. In the latter area, we have examined the stratigraphy around the main shaft of the tomb of Isisnofret. In a trench in line with the east-west axis of the shaft, we observed two layers of the chipping of the bedrock of the mountain. The first layer contains mud brick fragments and limestone fragments indicating the dump from the looting activities. The second layer consists of pure chippings of the bedrock originating from the initial excavation of the shaft by ancient tomb builders.

#### 1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1991年よりエジプト、アブ・シール南丘陵遺跡にて発掘調査および保存修復作業を継続してきた（図1, 2）。丘陵頂部では、これまでに新王国時代第18王朝中期のアメンヘテプ2世とトトメス4世に関連する日乾煉瓦遺構、第19王朝のラメセス2世の第4王子、カエムワセトの石造建造物とその娘とみられるイシスネフェルトのトゥーム・チャペルと埋葬室が発見された（吉村他 2009; 吉村他 2010）。第23次調査からは、カエムワセトの石造建造物、イシスネフェルトのトゥーム・チャペルとその周辺における人間活動を更に理解するために、未発掘エリアの発掘調査および既掘エリアで再検討が必要と思われる箇所の再調査を行った。

\* 1 東日本国際大学学長 / 早稲田大学名誉教授

\* 2 早稲田大学高等研究所准教授

\* 3 早稲田大学文学学術院教授 / 早稲田大学エジプト学研究所所長

\* 4 近畿大学文学部教授

\* 5 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

\* 6 早稲田大学大学院文学研究科博士課程

\* 7 早稲田大学大学院文学研究科修士課程

\* 1 *President, Higashinippon International / Professor Emeritus, Waseda University University*

\* 2 *Associate Professor, Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University*

\* 3 *Professor, Faculty of Letters, Arts, and Sciences, Waseda University / Director, Institute of Egyptology, Waseda University*

\* 4 *Professor, Faculty of Literature, Arts and Cultural Studies, Kinki University*

\* 5 *Visiting Lecturer, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*

\* 6 *Doctoral Student, Department of Archaeology, Waseda University*

\* 7 *MA Student, Department of Archaeology, Waseda University*



図1 サッカラ地図

Fig.1 Map of Abusir-Saqqara area

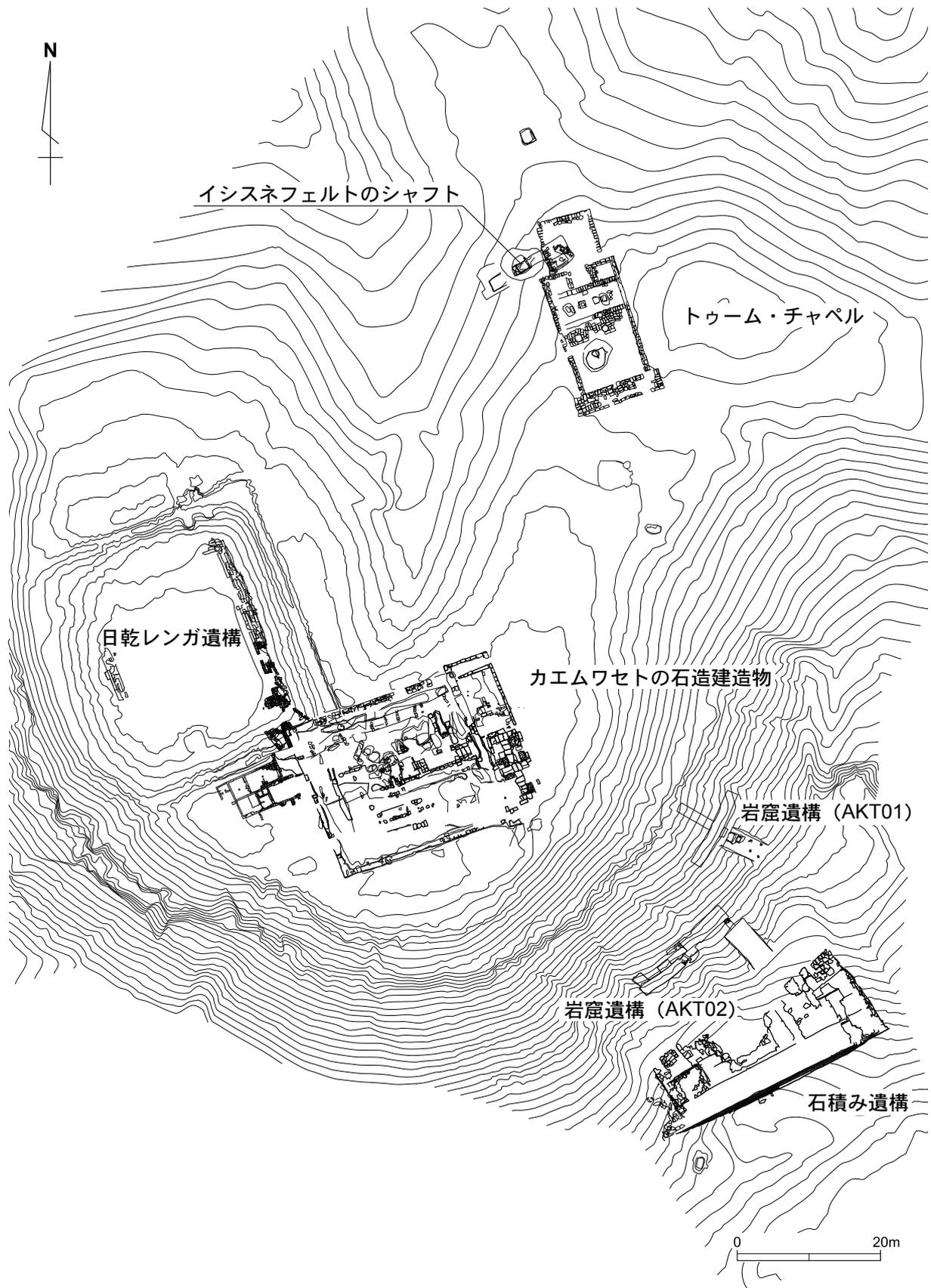


図2 アブ・シール南丘陵遺跡地図

Fig.2 Map of the site

第23次調査は、2014年8月5日から開始したが、前半は別稿にて報告するイシスネフェルトの石棺の保存修復を実施し<sup>1)</sup>、発掘調査は8月23日から9月11日の間に行った<sup>2)</sup>。発掘調査の内容は、①カエムワセトの石造建造物南側の未発掘部分の発掘調査および②イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘作業である。①カエムワセトの石造建造物南側は、これまでの発掘調査で未発掘のまま残された部分であり、石造建造物周囲での活動を明らかにすることを目的とした。そして、②イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘作業については、シャフトを囲む円環状の堆積を発掘することにより、シャフトの掘削から埋葬時の埋め戻し、盗掘活動から今日までの活動を明らかにすることを目的とした。

## 2. 発掘調査

### (1) カエムワセトの石造建造物南側

カエムワセトの石造建造物南側の発掘区は、丘陵頂部に設定したグリッドのうちの4B、4C、4Dにあたる(図3, 写真1)。まずは発掘区の層位を確認するために、トレンチ発掘を行った。すでに2001年の第10次調査にて石造建造物内部とその外側の構造あるいは地業の詳細を確認するために、石造建造物内部にてトレンチ発掘を実施しているが、今回はその中のトレンチを南側に延長し、トレンチG'と名付け、発掘調査を行った。トレンチの発掘後は、明らかになった層位を手掛かりに東西に発掘区を拡張した。

トレンチG'の層位は、表層が黄色砂礫層(第1層)、その下に地山由来の赤褐色粗砂礫を主体とし、石灰岩片、石灰岩チップ、多孔質石灰岩片、日乾レンガ片などを含む赤褐色粗砂礫層①(第2層)、石灰岩チップを主体とする層(第3層)、ナイルシルトを主体とする層(第4層)、赤褐色粗砂礫に石灰岩チップの混じる赤褐色粗砂礫層②(第5層)、そして赤褐色粗砂礫層を主体とする赤褐色粗砂礫層③(地山)(第6層)で構成される。地山は場所によっては黄色砂層と互層になっている(図4)。

第2層の赤褐色粗砂礫層①と第3層の石灰岩チップ層は、地山がやや窪んだ場所に堆積していた。堆積状況から、石灰岩チップは意図的に敷き詰められたと考えられる。更に石灰岩チップの上には、赤褐色の粗砂が敷き詰められているが、類似した状況は、カエムワセトの石造建造物のポルティコの下部でも確認されており、これらは地業であるとされている(早稲田大学エジプト学研究所編2001:116)。同様に、ここでも窪んだ場所に石灰岩チップを敷き詰め、更に赤褐色の粗砂で埋め立て、平坦面を作り出したと考えられる。

石灰岩チップ層の範囲の下にはナイルシルトの層(第4層)が、地山が窪んだ箇所に確認された。このナイルシルト層は、日乾レンガに由来すると考えられ、日乾レンガが溶けるなどして粉状になったと考えられる。また、ナイルシルト層からは炭化物が発見されており、火を用いた活動があったと考えられる。ナイルシルト層の直上からは新王国時代第18王朝に年代付けられる壺形土器が出土した。丘陵頂部において、日乾レンガが確認されるのは、第18王朝中期の日乾レンガ遺構の造営以降である。また、ナイルシルトの層の範囲は、石造建造物の南側の外壁の基礎溝によって切られており、石造建造物よりも古い時代に年代付けられる。

その他、石造建造物南側の発掘区では、4つのピットが発見された。ピット内部には、千切りの嵌め込み部分の加工がある石造建造物の建材として使用されていた石灰岩ブロックが詰められていた。また層位などから、これらのピットは石造建造物の崩壊後に年代付けられる。おそらく1970年代の丘陵頂部における軍事活動の一環であると考えられる。

以上を踏まえ、石造建造物南側における活動をまとめると、まず新王国時代第18王朝中期のアメンヘテプ2世とトトメス4世の日乾レンガ遺構の造営以降に、地山を掘り込み、もしくはもともとの自然地形の窪みを利用して、ここで火を用いた活動が行われていたと考えられる。その後、カエムワセトの石造建造物を

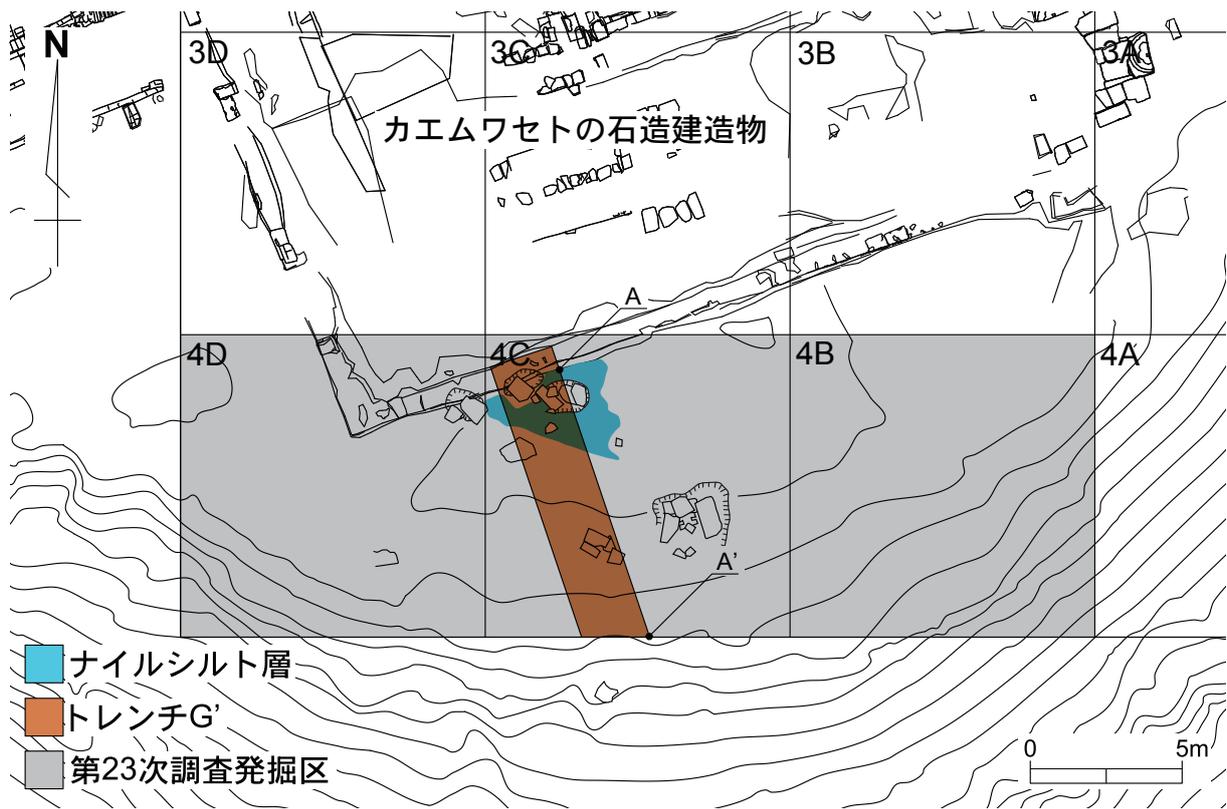
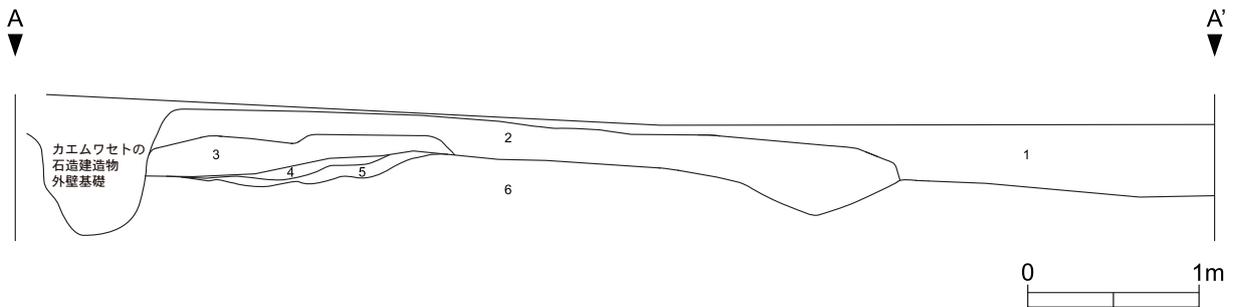


図3 カエムワセトの石造建造物南側の発掘区

Fig.3 The area to the south of the monument of Khaemwaset



- |  |  |
|--|--|
| <p>1 黄色砂礫層</p> <p>2 赤褐色粗砂礫層①</p> <p>3 石灰岩チップ層</p> <p>4 ナイルシルト層</p> <p>5 赤褐色粗砂礫層②</p> <p>6 赤褐色粗砂礫層③</p> | <p>礫 (φ10cm以下)、石灰岩チップ (φ1cm以下) などを含む。しまりなし。</p> <p>礫 (φ5cm以下)、石灰岩片 (φ5cm以下)、石灰岩チップ (φ1cm以下)、多孔質石灰岩片 (φ10cm以下)、日乾レンガ片 (φ20cm以下) などを含む。しまりあり。</p> <p>石灰岩片 (φ15cm以下)、石灰岩チップ (φ1cm以下) で構成される。礫 (φ0.5cm前後) も含む。しまりあり。</p> <p>主にナイルシルトから構成され、一部焼土も混じる。しまりなし。</p> <p>礫 (φ1~5cm)、石灰岩チップ (φ1~2cm) を含む。しまり弱い。</p> <p>地山。場所によっては黄色細砂層と互層。</p> |
|--|--|

図4 カエムワセトの石造建造物南側のトレンチ G' 東面セクション

Fig.4 The eastern section of Trench G' at the area to the south of the monument of Khaemwaset



写真1 カエムワセトの石造建造物南側の発掘区（発掘調査後、北より）

Pl.1 The area to the south of the monument of Khaemwaset, after excavation, looking from north

造営する際に、地面を平坦にするために石灰岩チップ、赤褐色の粗砂を敷き詰め、平坦面を作り出したと考えられる。

## (2) イシスネフェルトのシャフト周辺

イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘区は、グリッド 11B、12B にあたる（図 5、写真 2）。2009 年の第 19 次調査時にシャフト周辺の発掘調査を行ったところ、シャフト周辺にはシャフトの掘削排土および盗掘排土と考えられる層が円環状に堆積していることが確認された（吉村他 2010: 52）。こうした点を踏まえ、今期調査では、古代におけるシャフトの掘削から、埋葬後の埋め戻し、そしてその後の盗掘活動について考古学的に明らかにするために、シャフト周辺に円環状に堆積している箇所の発掘調査を、2009 年の第 19 次調査からの継続調査として行った。

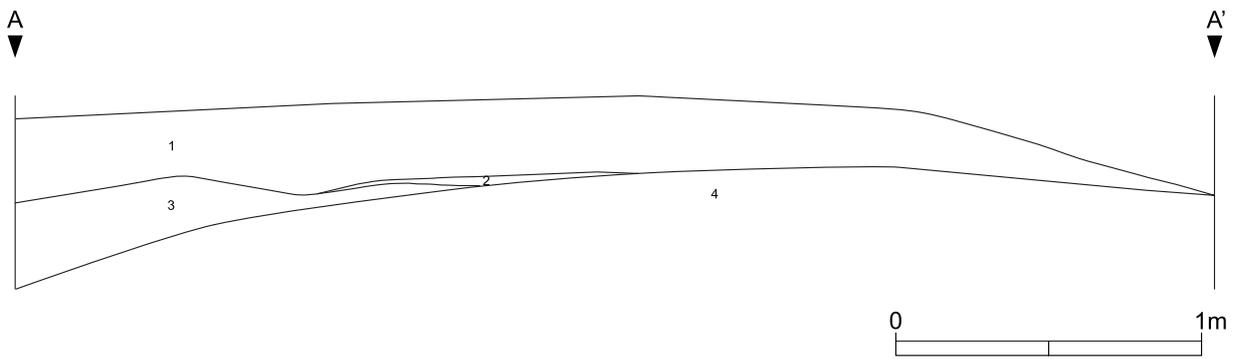
層位確認のために、シャフト西側に、シャフトの長軸に合わせるようにトレンチを設定した。トレンチ内の層位は、上から赤褐色粗砂礫、石灰岩チップ、石灰岩片、日乾レンガ片、岩盤に由来する多孔質石灰岩片が含まれた多孔質石灰岩層①（第 1 層）、硬化面（第 2 層）、多孔質石灰岩を主体とする多孔質石灰岩層②（第 3 層）、地山（第 4 層）であった（図 6）。

多孔質石灰岩①には、多孔質石灰岩の他に、赤褐色粗砂礫、石灰岩片、石灰岩チップ、日乾レンガ片などが含まれていた。これまでのイシスネフェルトのトゥーム・チャペルにおける発掘調査から、赤褐色粗砂礫、石灰岩片、石灰岩チップ、日乾レンガ片などは、トゥーム・チャペルの側室などの地業として用いられていたことが知られていることから（吉村他 2010: 18-19）、これらはトゥーム・チャペルに由来すると考えられる。こうした点から多孔質石灰岩層①は、トゥーム・チャペルが崩壊した後に、埋葬時にシャフト内部に詰めら



図5 イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘区

Fig.5 The area around the main shaft of the tomb of Isisnofret, after excavation, looking from west



- 1 多孔質石灰岩層① 多孔質石灰岩 (φ4~15cm) を主体とし、礫 (φ2~6cm)、石灰岩片 (φ10~30cm)、石灰岩チップ (φ1cm以下)、日乾レンガ片 (φ20cm以下) などを含む。しまり強。
- 2 硬化面 多孔質石灰岩で構成され、塩類などで硬く締まった層。
- 3 多孔質石灰岩層② 多孔質石灰岩 (φ6~15cm) を主体とする層。しまりなし。
- 4 赤褐色粗砂礫層 地山。

図6 イシスネフェルトのシャフト西側のトレンチ南面セクション

Fig.6 The southern section of Trench at west side of the main shaft of the tomb of Isisnofret



写真2 イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘区（発掘調査後、東より）

Pl.2 The area around the main shaft of the tomb of Isisnofret, after excavation, looking from east

れていた土砂を、盗掘のためにシャフト周囲に廃棄した際に、これらが混ざって堆積したものと考えられる。

一方で多孔質石灰岩層②（第3層）は、多孔質石灰岩を主体とするものであり、それ以外には砂が混じりのみであった。また、多孔質石灰岩層②は、シャフト西側にある石棺の搬入路（吉村他 2010: 26）を覆うように堆積していた。石灰岩片、日乾レンガ片などが含まれないことから、多孔質石灰岩層②は、イシスネフェルトのシャフトや埋葬室を造った際に出た岩盤の掘削排土を、シャフトの埋め戻しに使用したものと考えられる。また、多孔質石灰岩層②（第3層）の上面には、硬く締まった硬化面（第2層）が確認された。

その他、シャフトの周囲では、風成の黄色細砂層の上に赤褐色粗砂礫層の堆積が確認された。堆積状況から、シャフトが埋め戻され、ある程度の時間が経過し、黄色細砂が堆積した後に、盗掘などによって赤褐色粗砂礫が周囲に堆積したものと考えられる。

### 3. 主要出土遺物

#### (1) エジプト・アラバスター製駒

石造建造物南側から、セネト・ゲームなどのボード・ゲームに用いたと考えられるエジプト・アラバスター製の駒が出土した（図 7.1）。通常駒の形態は、円錐形と円盤形の2種類があり、これは円盤形の駒である。類例は、新王国時代のものが数多くある（Decker 1992: 124-135）。

#### (2) ファイアンス製容器

石造建造物南側から、胴部から底部までが残存したファイアンス製の皿形容器が出土した（図 7.2）。これまでアブ・シール南丘陵遺跡からも類似したファイアンス製容器が出土しており（早稲田大学エジプト学研

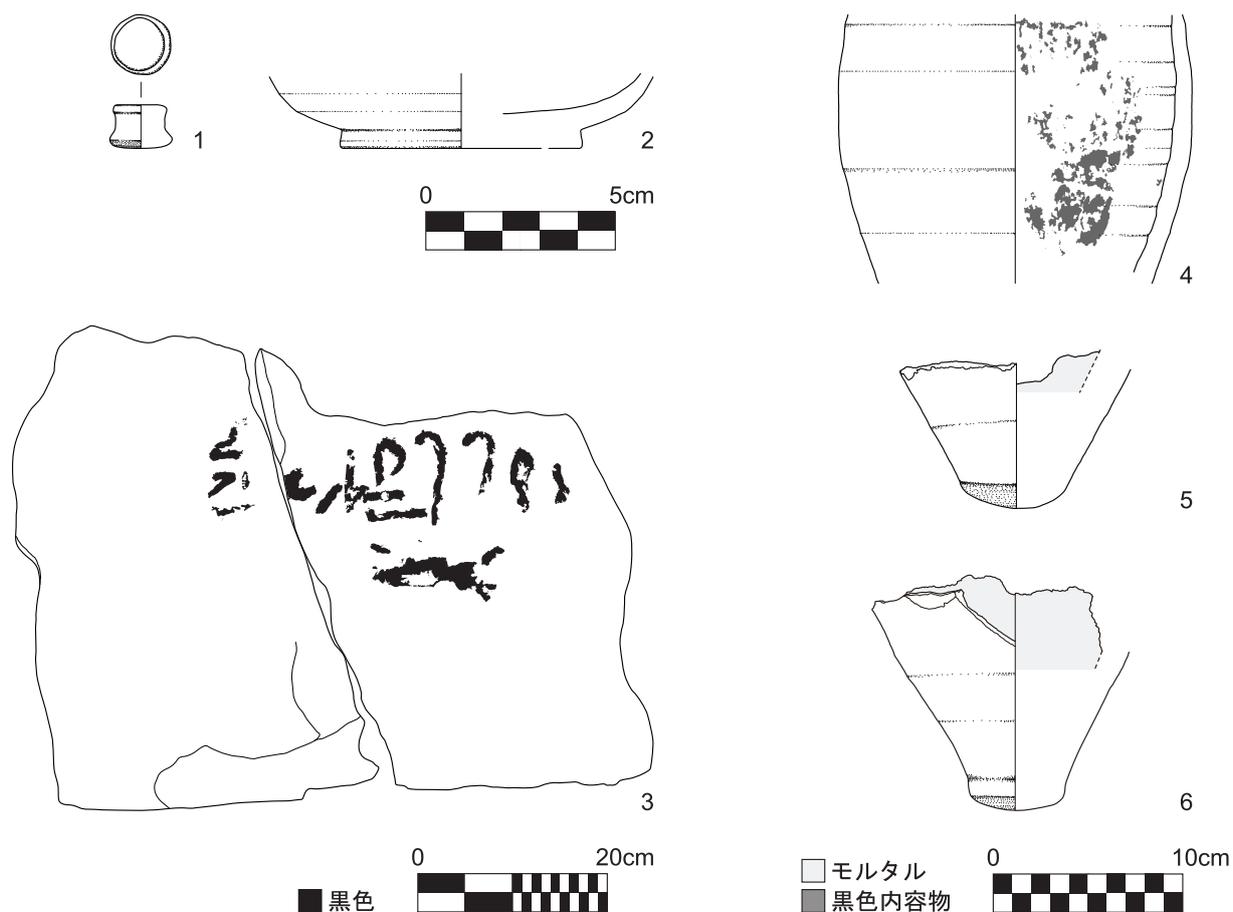


図7 主要出土遺物  
Fig.7 Major finds

究所編 2006: Fig.IV-6-8.7)。また、類例はサッカラの動物墓地にあり (Dayton 1981: 136, Pl.8.A)、末期王朝時代頃に年代付けられる。

### (3) インスクリプション付き石灰岩ブロック

石造建造物南側のピットから出土した石灰岩ブロックには、インスクリプションが記されているものが含まれていた。*sw ... smhy Ii3?*「... 日、左班イイア?」と記されている (図 7.3)。同じ人名はこれまでも石造建造物から出土している (早稲田大学エジプト学研究所編 2001: 295-305; 2006: 239-259; 吉村他 2003: 25-29)。

### (4) 土器

石造建造物南側から、壺形土器、アンフォラが出土した (図 7.4, 5)。アンフォラはカナーン壺の底部であり、内部にモルタルが残っていることから、石造建造物の建設の際のモルタル容器として再利用されたと考えられる。同じようにモルタル容器としてアンフォラが再利用された例は、サッカラのイニウイア墓などにもある (Aston 2012: 210, 212, nos.395, 398)。類例は、アマルナ王宮などにあり (Rose 2007: no.691)、新王国時代第 18 王朝に年代付けられる。シャフト西側からアンフォラが出土した (図 7.6)。アンフォラはカナーン壺の底部で、トゥーム・チャペル建設の際のモルタル容器として再利用されたと考えられる。類例は、サッカラのティア墓などにあり (Aston 2011: Fig.VI.10.94)、新王国時代第 19 王朝に年代付けられる。

#### 4. まとめと今後の課題

今次調査において、カエムワセト石造建造物の周辺の未発掘エリアは概ね完掘することができた。今後、石造建造物内部の精査を行う予定である。また、イシスネフェルトのシャフト周辺については、来期も発掘調査を継続し、シャフト周辺における活動を明らかにしていく予定である。残された未発掘エリアとしては、イシスネフェルトのトゥーム・チャペルの南側の部分があり、前身遺構の有無の確認などを含めて次期調査の課題としたい。

アブ・シール南丘陵頂部の発掘調査は大方終盤に差しかかっており、今後はこれまで発掘した遺構をどのようにして保存整備していくのかが大きな課題として残されている。今後、このような課題を念頭に置きながら調査を継続していく予定である。

#### 謝辞

本調査は、日本学術振興会科学研究費基盤研究（A）「葬制から見た古代エジプト文明の変化とその社会的背景に関する学際的研究」（研究代表者：吉村作治）および基盤研究（C）「エジプト王朝時代の聖地の形成と展開に関する考古学的研究」（研究代表者：河合 望）の助成を受けて実施された。ここに記して感謝申し上げる。

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古大臣マムドーフ・アル＝ダマディ閣下（博士）、王朝時代記念物局長ユーセフ・カーリーファ氏、外国調査隊管轄事務局長ムハンマド・イスマイール博士、サッカラ査察局長アラ・アル＝シャハータ氏、同副局長サブリー・ファラグ氏、チーフ・インスペクターのムハンマド・ユーセフ氏およびハムディ・アミン氏、サッカラのセリーム・ハッサン遺物収蔵庫の館長ラガブ・トゥルキ氏、我々の調査の査察官ホサーン・モクタール・ハマダーン・アッラー・ハッサン氏を始めとする多大なご協力を頂いた（肩書きは調査時のもの）。カイロでは、早稲田大学エジプト学研究所カイロ・オフィスの吉村龍人氏、ムハンマド・アシュリー氏に考古省との渉外などで大変お世話になった。

ここに記して感謝の意を表する。

#### 註

- 1) イシスネフェルトの石棺の保存修復作業については、以下を参照（苅谷他 2016）。
- 2) 調査の参加者は以下の通りである。考古班：吉村作治、近藤二郎、高宮いづみ、河合 望、高橋寿光、竹内恵太、福田莉紗、山崎美奈子、建築班：柏木裕之、保存修復班：苅谷浩子、人類学班：馬場悠男、坂上和弘、分析班：阿部善也、大越彩、内沼美弥、扇谷依李、現地渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー

#### 参考文献

Aston, B.G.

2011 “The Pottery”, in Raven, M.J., Verschoor, V., Vugts, M. and Walsem, R. (eds.), *The Memphite Tomb of Horemheb, Commander-in-Chief of Tutankhamun, V: The Forecourt and the Area South of the Tomb with Some Notes on the Tomb of Tia*, Turnhout, pp.191-303.

2012 “The Pottery”, in Schneider, H. (ed.), *The Tomb of Iniuiia in the New Kingdom Necropolis of Memphis at Saqqara*, Turnhout, pp.139-217.

Dayton, J.E.

1981 “Appendix D: Faience,” in Martin, G.T. (ed.), *The Sacred Animal Necropolis at North Saqqara: The Southern Dependencies of the Main Temple Complex*, London.

Decker, W.

1992 *Sports and Games of Ancient Egypt*, New Heaven.

Rose, P.J.

2007 *The Eighteenth Dynasty Pottery Corpus from Amarna*, London.

吉村作治、近藤二郎、河合 望、柏木裕之、西坂朗子、高橋寿光

2009 「発掘調査概要」、『エジプト学研究』別冊第13号、早稲田大学エジプト学会、pp.47-65.

2010 「III. 第19次調査概要 1. 発掘調査」、『エジプト学研究』別冊第14号、早稲田大学エジプト学会、pp.49-59.

吉村作治、河合 望、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、山田綾乃

2013 「発掘調査概要」、『エジプト学研究』別冊第16号、早稲田大学エジプト学会、pp.19-38.

早稲田大学エジプト学研究所編

2001 『アブ・シール南〔I〕』、鶴山堂.

2006 『アブ・シール南〔II〕』、Akht Press.



エジプト学研究 第22号

2016年3月31日発行

発行所 / 日本エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.22

Published date: 31 March 2016

Published by The Japan Society of Egyptologist

1-104, Totsuka-cho, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Japan Society of Egyptologist